



豊橋市美術博物館友の会だより

-2016年-夏号 Vol.95

FU風伯HAKU  
Summer 2016



## 展覧会紹介

## 丸沼芸術の森所蔵

## アンドリュー・ワイエス 水彩・素描展 息づく風景、オルソン・ハウスの物語。

7月16日(土)～8月21日(日) 月曜日休館(7月18日は開館し翌日休館)

豊橋市美術博物館 2階展示室

埼玉県朝霞市の「丸沼芸術の森」が所蔵する世界的に貴重なアンドリュー・ワイエスの水彩・素描等コレクションから115点を選んで紹介します。展覧会の詳細は同封のチラシをご覧ください。

## ●丸沼芸術の森とは

代表の須崎勝茂氏が、倉庫業を営む傍ら若手芸術家支援のために作ったアトリエ村。竹林を整地した広大な敷地に13戸のアトリエが建ち、絵画・彫刻・陶芸など様々なジャンルの創作活動が行われている。現代美術家として世界で活躍する村上隆氏もかつてはこの住人だった。

## ●ワイエスコレクションを「預かる」

1996年に須崎氏は若手芸術家の研鑽のためワイエスの水彩・素描等238点の購入を決意。作品の下見で渡米した際、くしくもワイエスとオルソン・ハウスで出会い、なぜそんなに多く自分の作品を買うのかと問われた須崎氏は、「買う」のではなく若手芸術家の勉強のために作品を「預かり」、所有物として秘蔵せず広く公開していくつもりだと答えた。それを聞いたワイエスは、「グレート!」と大きな手をさしのべ、二人は固い握手をかわした。美術品は、「買う」のではなく「預かる」。須崎氏が所有する3000点余の美術品は、すべて時代を超えた預かりものであると氏は述べている。

(学芸専門員 岡田亘世)



《クリスティーナの世界》習作 1948年  
©2016 Andrew Wyeth/ARS, New York/JASPAR, Tokyo E2119

## ◆友の会美術サロン (講座)

日 時 / 8月7日(日) 14:00-15:30 講義室にて

講 師 / 高橋秀治さん

(岐阜県現代陶芸美術館長・前愛知県美術館副館長)

テーマ / 「ワイエスと女性たち」

定 員 / 友の会会員40席 (申込先着順。☎51-2882)

一般40席 (当日先着)

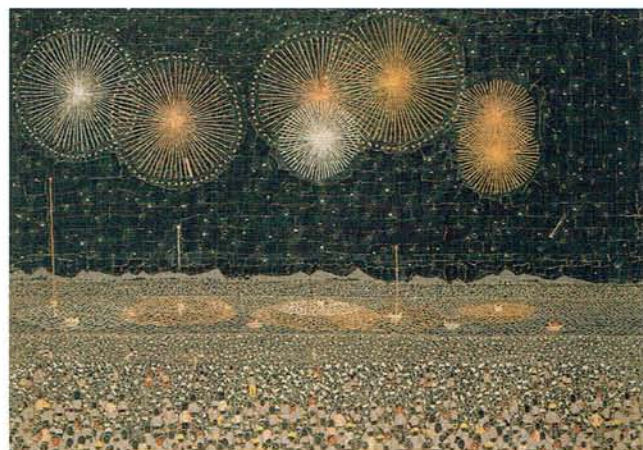
市制施行110周年記念

## 放浪の天才画家 山下清展

9月22日(木・祝)～10月23日(日)

豊橋市美術博物館 1階展示室 月曜日休館(※10月10日は開館し翌日休館)

大正11年(1922)、東京の浅草で生まれた山下清は、緻密で色鮮やかな貼絵による独特の芸術世界を確立し、「日本のゴッホ」とも称されました。昭和46年(1971)、49歳の若さ



《長岡の花火》1950年 ©清美社

でこの世を去るまでの波乱に満ちた生涯は、映画やテレビドラマにも取り上げられ、そのほのほのとした物語は幅広い層から支持されてきました。近年では、画家としての再評価の高まりとともに、彼独自の表現による文章にも注目が集まっています。

本展覧会では、画家として山下清が何を考え、何を感じながら作品を生み出したのかという視点から、芸術家としての真の姿に迫ります。全3章からなる展示では、生い立ちから貼絵と出会った少年期、そして山下清の代名詞にもなった放浪までを第1章で紹介し、放浪の後、画家として活躍し、さまざまな手法に挑戦する姿を第2章で紹介し、第3章ではヨーロッパを旅し円熟期を迎える最晩年までを紹介し、代表的な貼絵をはじめ、油彩や水彩画、ペン画、陶磁器や資料により、山下清の全貌を探ります。

(学芸員 田中竜也)





## 企画展 <sup>いずのかみ</sup>伊豆守が行く—吉田藩の大名行列と松平信明<sup>のぶあきら</sup>—

7月16日(土)～8月28日(日) 月曜日休館 (7月18日は開館し翌日休館、8月15日は開館)

豊橋市二川宿本陣資料館

江戸時代の三河吉田藩は、譜代大名が入れ替わりで支配しましたが、最も長く藩主を務めたのが大河内松平家でした。大河内松平家は3代将軍徳川家光の信任厚かった松平信綱を祖とし、代々「伊豆守」を名乗りました。歴代の伊豆守は老中・京都所司代・大坂城代といった幕府の要職を歴任し、中でも松平信明は約26年もの長きにわたって老中として幕政を主導する立場にありました。旧東海道二川宿で毎年開催されている

「二川宿本陣まつり 大名行列」は、吉田藩主の中でも名君として慕われている信明の行列を再現しています。

この展覧会では、参勤交代や幕府の役職に関する公的な旅など、吉田藩主大河内松平家が行った大名行列の様子がわかる資料を展示するほか、平成28年が松平信明の200回忌にあたることから、信明に関する資料を展示して、その人柄や業績を紹介します。

(学芸員 久住祐一郎)



松平信明書《落花開飛夜風》

### ◆関連講座(2回連続)のお知らせ

日時・演題

①7月23日(土) 午後1時30分～

「吉田藩の参勤交代  
～御目付役が記した大名行列～」

②8月6日(土) 午後1時30分～

「殿様の休暇～松平信明が見た吉田～」

講師：当館学芸員

定員：各50人(申込順)

申込み：二川宿本陣資料館へ電話

(☎41・8580)

## 館蔵浮世絵展 ワイド画面を楽しもう

9月3日(土)～9月25日(日) 月曜日休館 (9月19日は開館し翌日休館)

豊橋市二川宿本陣資料館

二川宿本陣資料館では、二川・吉田を中心とする地域の浮世絵、街道・宿場等を主題とする浮世絵を収集しています。

さて、浮世絵版画というと、歌川広重の作品として大変有名な「東海道五拾三次之内」(保永堂版)のような、一枚の紙面に情報を収めた浮世絵を思い浮かべる人も多いでしょう。

一方で、江戸時代も後期になると、版画を二枚、三枚、あるいは五枚、十枚と横に続ける大画面の作品「続絵(つづきえ)」が登場します(館蔵品にはありませんが、横三枚続の上下二段の計六枚続といったパターンもあります)。この「続絵」の登場により、絵師たちは、例えば東海道全体を表現するといった、それまでの作品とは違うテーマにも取り組みました。

今回の展覧会では、当館が所蔵する浮世絵の中から、「ワイド画面を楽しもう」と題して、続絵の世界を紹介します。(主任学芸員 高橋洋充)



歌川広重《伊勢参宮宮川の渡し》



特別寄稿

5月28日の友の会総会後にご講演いただいた伊藤遊さん（豊橋市出身、「『描く！』マンガ展」キュレーター）から、「マンガ展」の開催にちなんで、文章を寄せていただきました。

# 日本のマンガはなぜスゴいのか？ —日本のマンガ文化の特徴

京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター研究員 伊藤 遊

## はじめに——日本のマンガはスゴいのか？



2000年代以降、巷で「日本のマンガがスゴい」という声をよく聞くようになった。「クールジャパン」ということばをお聞きになったことがないだろうか。いまや、マンガ文化は、国策としてバックアップすべき日本を代表する「公的な」文化なのである。国がマンガに注目することになったき

かけのひとつは、2000年代以降、特に欧米において、日本のマンガが爆発的な人気を得たこと。日本と欧米のマンガ文化のどこが違うのだろうか？この小文では、日本マンガが「スゴい」理由を、その文化的な構造の中に探ってみたい。

されることで、マンガ文化はわたしたちの日常生活の中に浸透しているのである。

## 3 スゴい③:〈描く〉文化としてのマンガ文化——おわりにかえて

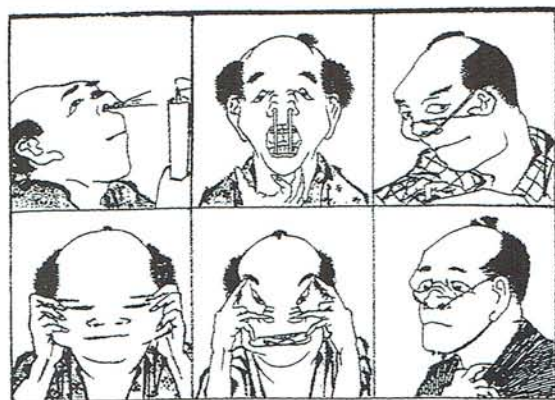
マンガを「読む」人／マンガを「描く」人の垣根の低さこそが、日本のマンガ文化の裾野を拡げてきた最大の特徴である。そして、そのことを知ってもらうことが、「『描く！』マンガ展」の重要な目的のひとつだった。海外では両者の間には頑然とした壁があるが、日本では「読む」人が「描く」人になるための架け橋がいくつも用意されている。それが、同展でも紹介されている『漫画少年』や『COM』といったマンガ投稿雑誌、同人誌即売会や大学漫研といった仕組み、「マンガの描き方本」やマンガの描き方を教える大学の存在なのである。

少なくない日本人が、常に、既に、マンガを描いていた。そうした「読む」-「描く」が一体化した環境の中で、展覧会でも紹介してきた天才たちが育っていったのである。

## 1 スゴい①:雑誌文化としてのマンガ文化

戦後におけるマンガ文化は、雑誌文化の中で成熟していった。書店やコンビニに行っていたら、あらゆる年齢層、ジェンダー、趣味などに対応したマンガ雑誌が用意されていることがわかるだろう。これほど多様な——2～300種類と言われている——マンガ雑誌が作られている国は、日本以外にない。

マンガ雑誌の重要な役割のひとつは、その「雑」の部分にある。ベテランによる手堅い人気作を押さえつつ、新人による作品や実験的な作品も掲載される。雑誌という場があることで、日本のマンガは常に、新陳代謝や、新しいジャンルの開拓を成功させてきたのである。



《北京漫画》葛飾北京の大ベスト=ロングセラー「北京漫画」は、「画集」ではなく「絵手本」。つまり江戸時代から絵を描きたいという庶民がたくさんいたのである。

## 2 スゴい②:〈ポピュラーカルチャー=大衆文化／日常生活文化〉としてのマンガ文化

日本のマンガ文化はまた、「9番目の芸術」とされているフランスなどと違って、「娯楽商品」としてのマンガ本を売ったり買ったりする「産業」構造の中で発展してきた。しかも、大量の複製品（印刷物）として提供されることで、多くの人々が手軽に手に入れることのできる〈ポピュラーカルチャー=大衆文化〉として、である。

2015年のマンガ本（雑誌+単行本）の売り上げは、3,268億円。日本人がいかにマンガにお金を費やしているかがわかるが、さらに重要なのは、日本のマンガ文化は「本」という形以外にも拡がっていて、しかもその市場が膨らんでいること。衣服や文房具、スマホのアクセサリやパチスロ機にいたるまで、あらゆるモノがキャラクターグッズ化



《マンガの描き方本》マンガの描き方を教えるマニュアル本は、戦前から数多く出版されていた。マンガを描きたいと思っている人がいかに多かったかがわかる。



# ヴォルフスブルグ市立美術館にて、交流展 *Face the World* を開催中 ～東松照明・浮世絵作品などを紹介～

豊橋市は2011年より、ドイツ・ヴォルフスブルグ市とパートナーシティ提携を結んでいます。マラソンランナーや青少年の派遣、オーケストラキャンプなど、様々な分野で交流が行われていますが、このたび、美術館同士の交流が展覧会という形で結実しました。

ヴォルフスブルグ市立美術館にて10月3日まで開催される展覧会の開会に合わせ、現地に行ってきたのでご報告いたします。

豊橋市からは、東松照明の写真作品より、愛知大学写真部時代の《皮肉な誕生》(1950年)をはじめ、県内で撮影された作品16点と、浮世絵作品「六十余州名所図会」「美人東海道」「役者見立東海道」「末広東海道」「豎絵東海道」の5つのシリーズより、1ヶ月単位で展示替えを行いながら、15点ずつ計60点を貸出しました。

本展には、現代作家・小金沢健人さんによる立体造形・映像・平面作品、須田悦弘さんによる木彫作品も展示され、19世紀から現代にいたる日本美術の様々な局面を伝える展示となっています。1999年よりベルリンを拠点に活動する小金沢さんは開場式にも列席され、ご挨拶することができました。

開会に合わせて行われたフレーガー館長やコーバー学芸員のギャラリートークを聴く機会を得、浮世絵については、フレーガー館長が昨夏来豊した際に乗車した東海道新幹線を引き合いに出し、東海道五十三次を身近にかつ分かりやすく説明されていたことが印象に残っています。二川宿本陣資料館の体験コーナーにて投影している、浮世絵の制作過程の紹介映像も好評でした。高身長ドイツ仕様なのか、浮世絵は日本で見るよりも高い位置に展示されています。東松の写真は、インスタレーションを意識して複数の作品をセンス良く一群の塊として見せていました。

来春2月25日～3月26日には、ヴォルフスブルグ市立美術館、ならびに同美術館と同じくヴォルフスブルグ城の中にあるハイダースベルガー研究所の協力により、同市を代表する写真家・ハイダースベルガーの写真展を当館にて開催し



ハインリヒ・ハイダースベルガー 《ヴォルフスブルグ・ホーヘンシュタインのそり》  
©Heinrich Heidersberger, #9100\_7.1, Rodeln am Hohenstein, Wolfsburg ca.1960, Institut Heidersberger, www.heidersberger.de

ます。同展についての構想を練ることも、今回の滞在の大きな目的の一つでした。打ち合わせには、ご子息のベンジヤミン氏も同席され、「日本において初めての個展が開催されることを嬉しく思う」とのお言葉をいただきました。

1938年にナチスによる自動車産業（フォルクスワーゲン）の計画都市として設立され、第二次世界大戦後に急激な成長を遂げたヴォルフスブルグ市は、街の振興と芸術が密接に結びついています。ハイダースベルガーをはじめとする芸術家が移住し、街なかには公共彫刻がいくつも見られます。広大な面積を誇るヴォルフスブルグ城は、レジデンスルームや工房も完備し、日本人作家も数多く滞在しました。昨夏当館にて開催した「岡本太郎と中村正義 東京展」出品作家のうち、若江漢字もその一人です。

ハイダースベルガーは、急激に成長していく街の様子を活写しました。《ヴォルフスブルグ・ホーヘンシュタインのそり》は、小高い丘から市内を一望しています。右後方にはフォルクスワーゲン工場の煙突が3本見えますが、これらの煙突は撮影時には完成しておらず、彼自身により描き込まれたものです。

約4ヶ月のロングラン。夏の休暇にヨーロッパをお考えでしたら、ぜひ候補地に入れて下さい。本展は、観覧無料です。

(学芸員 細田樹里)

## Face the World-Fernost Ganz Nah

2016年6月1日～10月3日 ヴォルフスブルグ市立美術館

•同館のホームページ<http://www.staedtische-galerie-wolfsburg.de/>



会場入口: Fernost は「極東」、Ganzは「きわめて」、Nahは「近い」を意味するドイツ語



会場風景: 東松照明の写真



## 春の研修旅行記

「『生誕300年記念 若冲展』と中村正義の美術館をたずねて」（4月26日～27日）の参加者から届いた旅行記をご紹介します。

## 上野で美術館めぐり

波多野典子（113）

みどりの綺麗な季節なかでの出発です。初めての参加にワクワクして出かけました。バスの中からは富士山の雄大な姿が見えて、良い旅になると確信しました。

「若冲展」の入場待ち時間は85分でした。入場してからも、みなさんの若冲を観るといふ熱気に圧倒され、絵の上の方しか観られません。私もこの天才の「釈迦三尊像」「動植綵絵」の色彩と緻密さを見逃すまいと思って、落ち着きませんでした。いっぽう水墨画からは若冲の勢いがそのままに感じられ、ほっとしながら鑑賞できました。

若冲の名前を付けたという売茶翁の絵もありました。私の母は売茶流の教師をしていたので、小さいときからその名を何度も聞いていました。売茶翁は質素な着物姿で棒に茶器を担ぎ、河原で揺れる旗の下、お茶をみんなに配っていました。一服のときをゆっくり楽しめるようにお茶を入れていた売茶翁の生き方と、若冲の心情は重なると思います。

## 中村正義の美術館を訪ねて

高木大介（3051）

川崎市郊外の閑静な住宅地。起伏に富んだ路地を上ると、南側に開けた庭を持つひととき開放的な白い建物が現れました。それが画家の愛した終の住処であり、現在の「中村正義の美術館」です。訪問当日は、館長であり正義の娘でもある、倫子さんが出迎えて下さいました。

建築家篠原一男氏の手による設計は、高い天井と明るく白い壁面が印象的で、展示室にも気持ちのよい春の風が吹き抜けていました。かつてリビングであったその部屋の壁には、中村正義の「かお」が数十点掛けられています。我々には馴染みの深い「かお」たちですが、そこで見る印象は、美術館のスポットライトに浮かび上がる、大胆で挑戦的な印象とは異なり、とても穏やかに見えました。正義は著書の中で「絵はすべて自画像」であると述べてい

子どものころ「売茶」という名前がお金に関係のある気がして、尊敬できませんでした。40年後になってその凄さがわかり、感激しました。

自由時間には「カラヴァッジョ展」を鑑賞しました。殺人を犯して逃亡し、ポルト・エルコレで不慮の死を遂げたときに持っていた「1枚のマグダラのマリアの絵」が世界初公開でした。クリスチャンの私にとっては、カラヴァッジョの神に対する恐れ、悲しさ、狡さが素直に出ていて興味深かったです。

趣味の同じ方との旅行で、ひとしお面白く感じられました。自動販売機の前にずっと立っている方を見かけ、不思議に思っていると、同じメーカーの飲み物でも絵柄が県によって違うことに興味を持たれ、見ておられるのだとわかりました。また、夕食には7人ほどで居酒屋に出かけて生ビールを飲み、とても楽しい時間を過ごしました。

ます。様々な「かお」が画家の感情の写し鏡であると考えれば、それらは変わらずその場に在ることを喜び、訪れる人々を温かく迎え入れているようにも感じられます。

4月の庭には、泰山木が白く大らかな花を咲かせていました。倫子さんによると正義は生前、よくこの庭をもの思いに耽りながら歩いていたそうです。制作中の作品のこと、世の中のこと、家族のこと、自身の体調のこと、何が画家の頭を巡っていたのかを、壁に掛けられた「かお」たちを眺めながら想像してみます。

この美術館を訪ねて、これまで以上に中村正義という存在を近くに感じることが出来ました。



中村倫子館長のお話を聞く



参加された方々



# はじめまして よろしく！ 新職員紹介

## 豊橋市美術博物館

もうり い ちろう

### 毛利伊知郎新館長より



今年度から館長をさせていただくことになりました。今年3月末までは三重県立美術館の館長をつとめていました。日本美術史、特に日本近現代彫刻史と近代日本画史を中心に研究しています。

豊橋市美術博物館については、オーソドックスな活動を行っている施設という印象を以前から抱いていました。館員諸氏がこれまで培ってきた長所をさらにのびし、地域の人々に貢献できる美術博物館を心がけたいと思います。金原宏行前館長と同様、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 豊橋市二川宿本陣資料館

ひら い やすひろ

### 平井康博新館長より



平成28年4月1日付けで二川宿本陣資料館館長として業務に携わることになりました。市役所で事務屋としての36年間（10課）の経験を活かして、本陣、駒屋を中心とした二川地域のプロモーション活動を推進してまいりたいと考えています。

二川宿本陣では、ひなまつりや五月人形展などの五節句に関するものや季節に応じた企画展を開催するとともに、真夏の「灯籠で飾ろう二川宿」や秋の「本陣まつり・大名行列」などの地域ぐるみのイベントにも積極的に参加し、盛り上げてまいりたいと思いますので、友の会の皆さまの更なる応援をお願いします。



### 植田 年香 (うえた としこ)

美術博物館 主幹

趣味／書

一言／微力ではありますが、今以上に多くの方が足を運んでくださるような美術博物館となるよう取り組んでいきたいと思っています。



### 鈴木 大輔 (すずき だいすけ)

美術博物館 管理グループ

趣味／楽器演奏、レコード屋巡り。音楽好きが高じて、前職はレコード屋勤めをしていました。見た目とはうらはらに(?) すごくうさぎバンドに参加しています。

一言／美術博物館に勤務できることをうれしく思っています。よい仕事ができるように努めていきたいと思っています。



### 大竹 良夫 (おおたけ よしお)

民俗資料担当 (嘱託)

趣味／音楽鑑賞、楽器演奏、絵画制作、ドライブ

一言／生きることがおもしろくなるようなことをいっぱい探しています。そういう「こと」「もの」「ひと」大募集です。仕事もプライベートもよろしく願いいたします。

#### ●お世話になりました

金原宏行さん(美術博物館 館長)→アドバイザー  
後藤清司さん(二川宿本陣資料館 館長)→退職  
田中伸治さん(美術博物館 主幹)→こども発達センター事務長  
朝倉美典さん(美術博物館 管理グループ)→図書館  
星野好久さん(民俗資料担当(嘱託))→退職

## 豊橋市美術博物館友の会賛助会員一覧 (50音順・敬称略)

友の会活動にご支援をいただき、ありがとうございます。

(株)アーチザン／(株)アイセロ／青山建設(株)／旭精機(株)／渥美運輸(株)／井口土建(株)／(株)イズミテック／(株)イデアル・アトレ／SMBC日興証券株豊橋支店／宗教法人円成寺／大岩整形外科・皮フ科／(医)慈恵会大島整形外科クリニック／(株)小倉屋／ガステックサービス(株)／(株)金田石油店／蒲郡信用金庫／管財(株)／共和印刷(株)／国盛商業(株)／(医)光生会光生会病院／(有)高誠堂／(医)常念会権田脳神経外科／サーラ住宅(株)／(株)サーラビジネスソリューションズ／特別養護老人ホーム作楽荘／三遠機材(株)／(医)三遠メディメイツ／(株)三光製作所／(株)シミス／杉本屋製菓(株)／(株)スミ電機工業所／(株)精文館書店／(有)創喜商会／総合警備保障(株)豊橋支社／(株)大建／大三紙業(株)／(株)大仙額縁事業部／ダイハツ豊橋(株)／学校法人高倉学園／(医)一誠会タキカワ整形外科クリニック／(株)中部／中部瓦斯(株)／中部瓦斯(株)豊橋支店／中部ガス不動産(株)／中部採石工業(株)／豊川信用金庫豊橋支店／豊鉄観光サービス(株)／トヨネン(株)／豊橋塩業(株)／(株)豊橋園芸ガーデン／豊橋才能教育こども園／豊橋商工信用組合／豊橋信用金庫総合企画部／豊橋鉄道(株)／日本放送協会名古屋放送局豊橋支局／(医)ハタノ耳鼻咽喉科／(株)花田工務店／(株)ピオック／(医)正眼堂疋田歯科医院／学校法人藤ノ花学園／(株)プライズメント／(株)紅久商店／老人保険施設ベルヴェールハイム／峯雲会／(株)豊川堂／本多プラス(株)／松坂司法書士事務所／(株)丸金商会／mixs.／(株)三菱東京UFJ銀行豊橋支店／(株)都デザイン／向山デベロッパ(株)／(医)村田小児歯科センター／やまざき歯科クリニック／ヤマサちくわ(株)／有楽製菓(株)豊橋工場／ユタカコーポレーション(株)／(医)横山内科／ワルツ(株)

以上79社(平成28年5月末現在)



## 収蔵品紹介

さんさいらんようつるくび かびん  
**三彩藍泐鶴首花瓶**

六代清水六兵衛 ●KIYOMIZU Rokubei VI

13.0×25.0cm 司コレクション

黄、緑、赤、青と、さまざまな色が混ざり合い、器面を彩っています。鶴の首をかたどった優美な器形と幻想的な色彩が見事に調和しています。

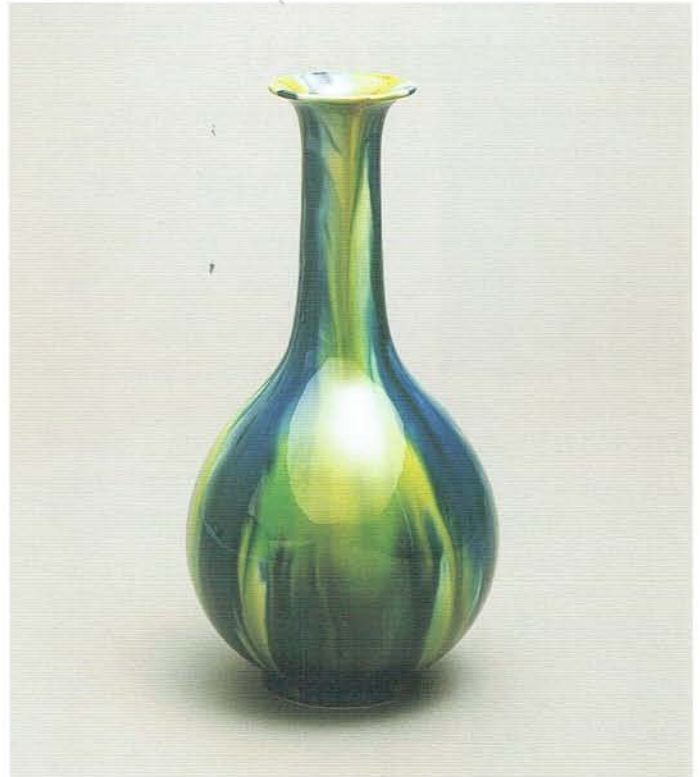
六代清水六兵衛は幼名を正太郎といい、明治34年(1901)、清水焼の窯元に生まれました。六兵衛窯は初代が明和8年(1771)、京都五条坂に開窯して始まった伝統ある陶家です。父五代の薫陶を受けながらも伝統に甘んじず、生涯にわたって独自の創作活動を展開しました。

昭和2年(1927)、工芸部(第4部)が新設された帝展に入選し、以降も同展に出品し続けました。父五代とともに帝展や戦後の日展で活躍したことは、清水家が京都五条坂の陶家から、大きく日本の陶芸家へと飛躍するきっかけになりました。昭和3年(1928)、清水の姓を初代以来の「きよみず」に戻したことも、新たな清水家の出発を意図したと思われる。

六代六兵衛は活動初期、欧米の美術運動アール・ヌーヴォーを研究し、その成果を生かした作品を残しました。また中国古陶磁の研究にも励み、その作域を広げました。

昭和20年(1945)に家名を襲名してからも精力的に作陶し、昭和37年(1962)、日本芸術院会員に任命されました。昭和55年(1980)に亡くなるまで、日本の陶芸界をリードする存在であり続けました。

古陶磁研究のために訪れた中国で、六代六兵衛は唐三彩に感銘を受けます。唐三彩は7世紀後半、副葬用陶器のために生み出された装飾技法で、複数の色の釉薬を素地に掛けて焼成します。



唐三彩をもとに、六代六兵衛は藍泐という釉薬を作り出しました。本作ではこの技法により、鉄を成分とする黄色と赤褐色、銅による緑色に加え、コバルトによって美しい藍色を発色させています。現代性を取り入れながら、伝統との融合を試みた六代六兵衛の技巧をよく示す逸品です。

(豊橋市美術博物館 学芸員 田中竜也)

◆第2期常設展(7/10まで)で公開中

**編集後記**

一人でふらりと美術館や寺社巡りをするのは好きだが、団体に所属することが苦手で、長年、友の会は幽霊会員。『風伯』も斜め読みだった。

そんな私が『風伯』の編集委員になって四年目に入る。たしかに編集会議や校正など仕事は多いものの、得ること吸収することのほうがずっと多い。編集会議のたびに、友の会の旅行地、安野光雅、岡本太郎、武井武雄から模型まで、メンバーの豊富な知識に刺激を受け、学芸員さんから専門分野の話を聴いて、視野の開ける思いをしている。さらには地元画家さんにインタビューする機会もあり、学びと気づきの日々である。

今年度はマンガに始まり、ワイエス、山下清、そして既成の枠にとらわれない「NIHON画」と、全方位的に無敵で素敵な企画が用意されている。斜め読み読者の目を惹きつけるような、魅力的な誌面を目指したい。

(神野志保子)

**【表紙作品】**

アンドリュー・ワイエス《オルソンの家》1966年  
丸沼芸術の森蔵

©2016 Andrew Wyeth / ARS, New York / JASPAR, Tokyo E2119  
◆「丸沼芸術の森所蔵 アンドリュー・ワイエス 水彩・素描展」  
(7/16～8/21)で公開

**豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第95号**

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会  
会 長 宮田正人  
編 集 長 高須博久(副会長)  
編 集 委 員 鈴木冷子 神野志保子 河邊満江 雷田真知子  
藤本逸子 清水貴裕  
協 力 豊橋市美術博物館  
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882  
平成28年6月30日発行